

様式第1号 (第6条関係)

協働事業に関する提案書

平成 28 年 4 月 5 日

(宛先)狭山市長

団体名 NPO法人さやま保育サポートの会

所在地

代表者名 諏訪 きぬ

次のとおり、協働事業に関して提案します。

1 提案する協働事業	○市民提案型協働事業・ 行政提案型協働事業
2 事業名	子育て支援方策の拡大・深化 － 家庭訪問型支援(ホームスタート)のネットワーキング
3 事業期間	平成 28年 6月 1日 から平成 29 年 2月 28日
4 事業種別	<input type="checkbox"/> 単年度事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業
5 事業予算	688,366円 (補助金 340,000円)
6 事業概要 ※100字以内で簡潔に記入 してください	家庭訪問型子育て支援(ホームスター)を展開し、子育て支援を得にくい家庭をサポートすることによって、地域コミュニティにおける子どもと家庭の福祉の向上を図り、子育て困難から児童虐待に陥ることを未然に防ぐための事業である。
7 添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 協働事業に関する企画書 (様式第2号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業収支予算書 (様式第3号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業実施スケジュール (様式第4号) <input checked="" type="checkbox"/> 協働事業提案団体概要書 (様式第5号)



協働事業に関する企画書

団体名 NPO法人さやま保育サポートの会

1 事業名	子育て支援方策の拡大・深化 —家庭訪問型支援(ホームスタート)のネットワーキング—
2 事業の詳細	昨年度は、ホームスタートジャパンから本スキームの認定を取得し、より多くの訪問活動を展開するために尽力した。事業の意義を広めるため、こども課や保健センター等と連携しつつ広報活動に努め、ホームビジター増員のため、養成講座を実施した。本年は和光市の活動に学びつつ、家庭訪問型支援への理解を深めるため、保健センター等との連携のほか、総合子育て支援センターや子育てプレイス、主任児童委員会とのネットワーキングを図りたい。また本格的に狭山市の事業として家庭訪問型支援が実施され、支援活動が本格的に展開されることを企図していきたい。
3 実施体制	スキームの管理・運営 …オーガナイザー 4名 利用家庭への訪問活動 …ホームビジター 18名 オーガナイザー、スキームへの助言・支援 …運営委員 10名
4 役割分担	<p>【提案団体の役割】 ホームビジターの養成とそのスキルアップを図り、活動の質を高め、家庭訪問支援の充実を図る。子育て支援に当たるこども課、保育課等との連携を深めると共に、子育てプレイス、主任児童委員会、保健センターとのネットワークを構築する。</p> <p>【市の役割】 ①家庭訪問型支援を必要とする子育て家庭を把握し、当事業に繋げる。 ②こども課の家庭相談室や保健センターの家庭訪問支援との差別化を図り、市の事業の隙間を補完する事業として実施運営経費の補助を行い、行政責任を果たす。</p>
5 協働の効果	長年のNPO法人の活動を通して、心を病む親の増加に直面し、ホームスタートジャパンが推進する家庭訪問型支援の必要性を自覚した。それから1年間の間に本スキーム立ち上げまで進むことが出来たのは、こども課等のバックアップによって、協働推進の補助金が得られたこと、広報活動、会場確保等各課からの全面的支援を受けられたことが大きい。
6 事業のアピールポイント	家庭訪問を実施して感じたことは狭山に移住した親たちの子育ての「孤育て」化の実態である。子育て中の母親が誰にも相談できず一人で問題を抱え、自分を見失ってしまう事態が生じている。また心を病んだ親をサポートする必要度はきわめて高い。孤立感やストレスが増幅し、虐待に走る前に、支援や手助けを受けられるようにするためには、支援者の層を厚くし、裾野を広げる必要がある。狭山市の掲げる「子育ての街・狭山」を実現する手立てとしても、家庭訪問型支援を定着させたい。